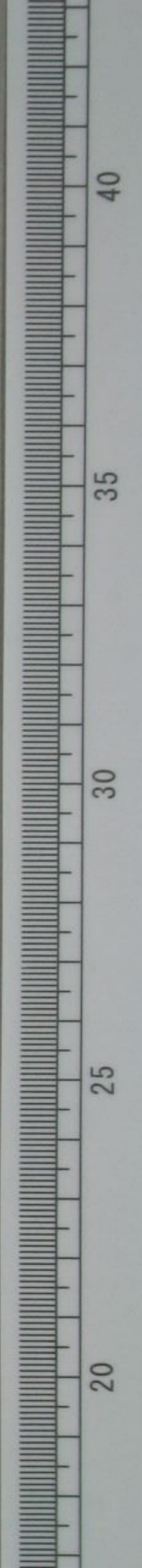




畫本寶鑑

子 4
1077
2



1.077
2

珍中寶鑑卷之第二目錄

才十

李左白

才十六

王義之

才十八

金苍石

才二十

毛宝白龟

才廿二

儀閣

才廿四

日能

才廿六

能吸三教

才十八

林和靖

才十七

葛乙公

才十九

藤武

才廿一

曹叔

才廿三

賈真

才廿五

三笑

才廿七

高四皓

會本卷三目錄

し

二十一

七賢

三十

竜門

廿二

猿

廿四

瓢箪推鯨

廿六

陶淵明

二十九

仙舟叔仲

三十一

猿高志

廿三

一龜三窟

廿八

牡丹睡猫

廿七

孫明府

第十

李大白

李白の酒と好む詩と能なり。恒子沈碑志を
踏むて人より杖らる。漸と凡るる。危山よ
ちり。危山よ。李白の世也。い流氷とハ雲
海とハ新子描を。し。又青子よりりく
李白の猿と抱を。あやうめを描なり。
あまらるし



第五

林和靖

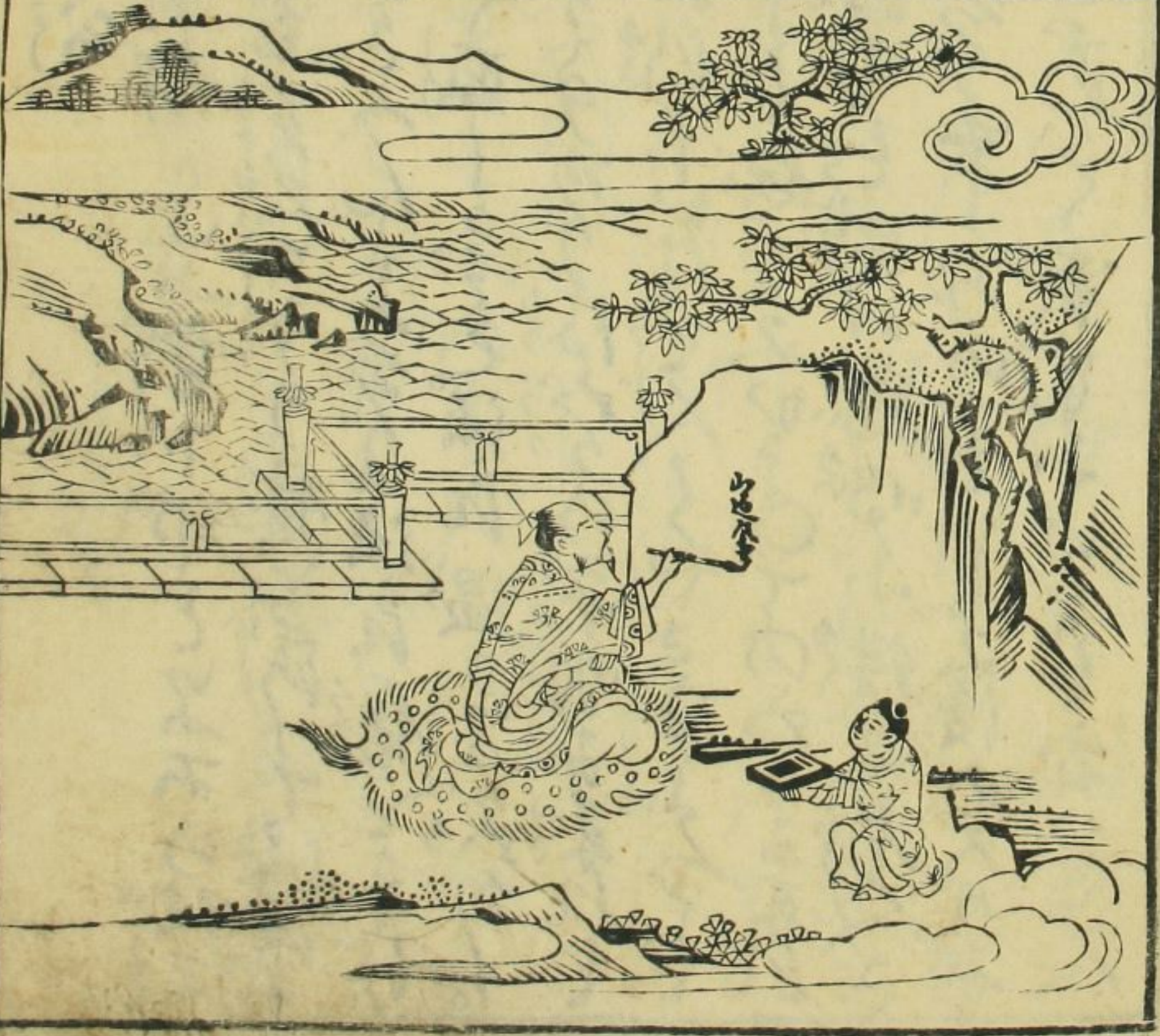
梅^{あいら}と^{あいら}清^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と
 平^{あいら}生^{あいら}石^{あいら}室^{あいら}之^{あいら}養^{あいら}林^{あいら}
 菊^{あいら}鳥^{あいら}と^{あいら}竹^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と
 白^{あいら}り^{あいら}又^{あいら}月^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と
 梅^{あいら}花^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と
 河^{あいら}れ^{あいら}を^{あいら}い^{あいら}ひ^{あいら}ふ^{あいら}す^{あいら}け^{あいら}
 て^{あいら}梅^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と
 月^{あいら}と^{あいら}梅^{あいら}と
 梅^{あいら}し



第六

王羲之

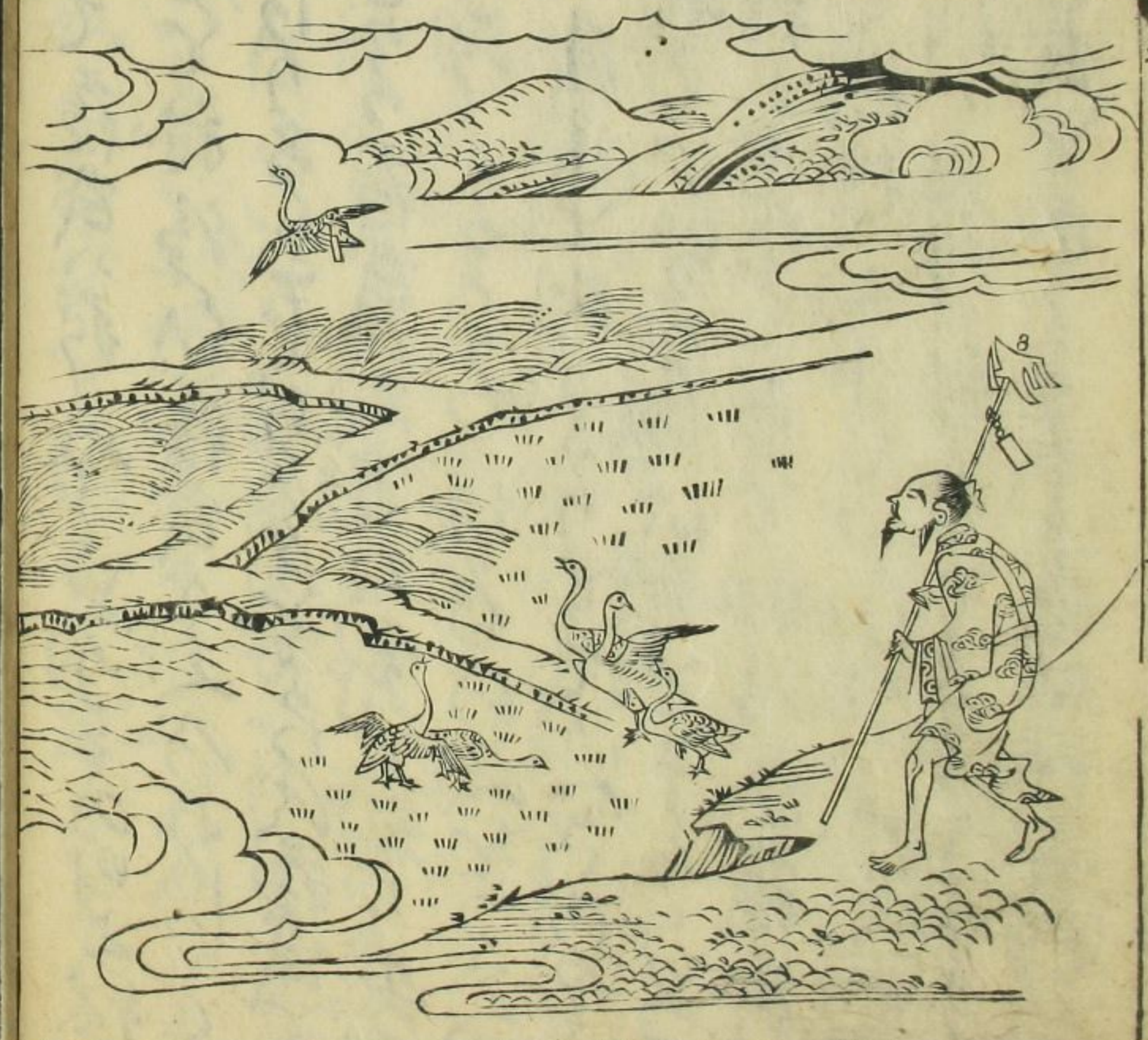
王^{あいら}羲^{あいら}之^{あいら}八^{あいら}晋^{あいら}の^{あいら}代^{あいら}
 の^{あいら}人^{あいら}あり^{あいら}。文^{あいら}子^{あいら}巧^{あいら}
 小^{あいら}子^{あいら}筆^{あいら}に^{あいら}妙^{あいら}あり^{あいら}。
 阿^{あいら}ま^{あいら}り^{あいら}筆^{あいら}勢^{あいら}剛^{あいら}
 高^{あいら}く^{あいら}石^{あいら}を^{あいら}入^{あいら}る^{あいら}
 云^{あいら}は^{あいら}し^{あいら}と^{あいら}す^{あいら}



秋とさうもん心のさら下を將とされ帝に居る
 くれん。こまをありめあけよ。あつ時ひらの
 のねふ文と解く翔せしが玉液のん天を
 通しうりあんげるおとまて飛びきたる
 然るハ漢乃武帝れれ子位は即位し。こまを
 昭帝とすけり時。匈奴と和議のりありし。こまを
 匈奴とすけり。あつしうり。い時ふとと林園あて
 ひらのちと解くあまふねあつたひらの象
 書あり。こまをばふ。匈奴は中に行りし。
 こまをうり。いまも匈奴はあつしうり。あつし
 ありし。匈奴は種武とけり。いんをさうし。

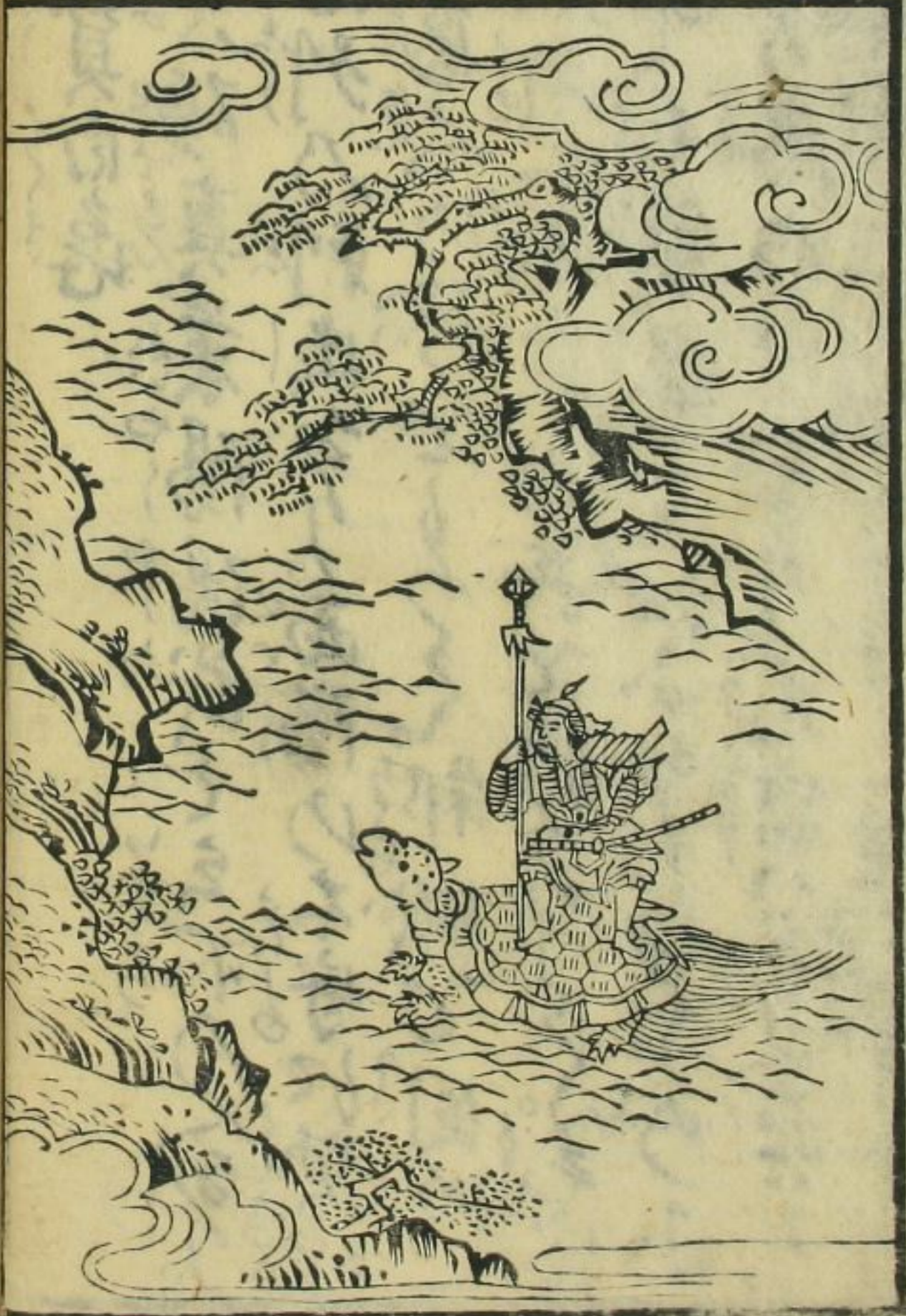
信もこまを説て種武ハ死ぬし。その時と林
 書をけりて。あつと射冷ひ。種武が文のありしと。
 かさひく詔けりあつし。あつしとあつし。種武と
 入し進しせり。種武ハ大官大貴と賜り。あ
 八十餘けりて死し。あつし。あつし。あつし。あつし。
 し。あつし。匈奴種武と死し。あつし。あつし。あつし。
 一也。常あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。
 かりて帝と林書をけり。あつし。あつし。あつし。あつし。
 が文ありしと。徳授けり。あつし。あつし。あつし。あつし。
 者とあつし。あつし。あつし。あつし。あつし。あつし。
 小及んべ。種武とあつし。あつし。あつし。あつし。あつし。

まことかり
城を居るし書と
傳へしおわらば
常恵が計を
出さる。世よひ
何うもよみ美よ
云あつりせし六
ことよりたへ
の便とる便
ごとるもた
りり



第北 毛寶白鹿
晋の毛宝字碩真業陽陽武と云ふ所の人あり。
征虜將軍孫劄の刺史あり。西陽の太守に樊峻
といふ人と一萬人の兵とあり。邾城と固めし
時石虎といふ者二萬騎の兵とけり。毛宝
と攻城とありて毛宝退くは小おもしろく。あふ
溺きて死せり者おふ人あり。毛宝を又死せり。
毛宝初に武昌と云ふ所ありし時。毛宝が四
の青布あき白鹿と買おき。あふあて江
ふるあつり。そ人毛宝に志さうけり。
邾城を居る軍散く。毛宝といふくあて

江よとまじくさた。甲くあふおあまうが。ちあうた
のよふあうとさえてあやあまこひさむは亀
あり。あみあまうらりあり。はあーあひーうんと
のせく。東の
あふささるる
道とささるる
毎の背に死と
たどりのさく
はあまんか
とこつと法連の
かすあまあり



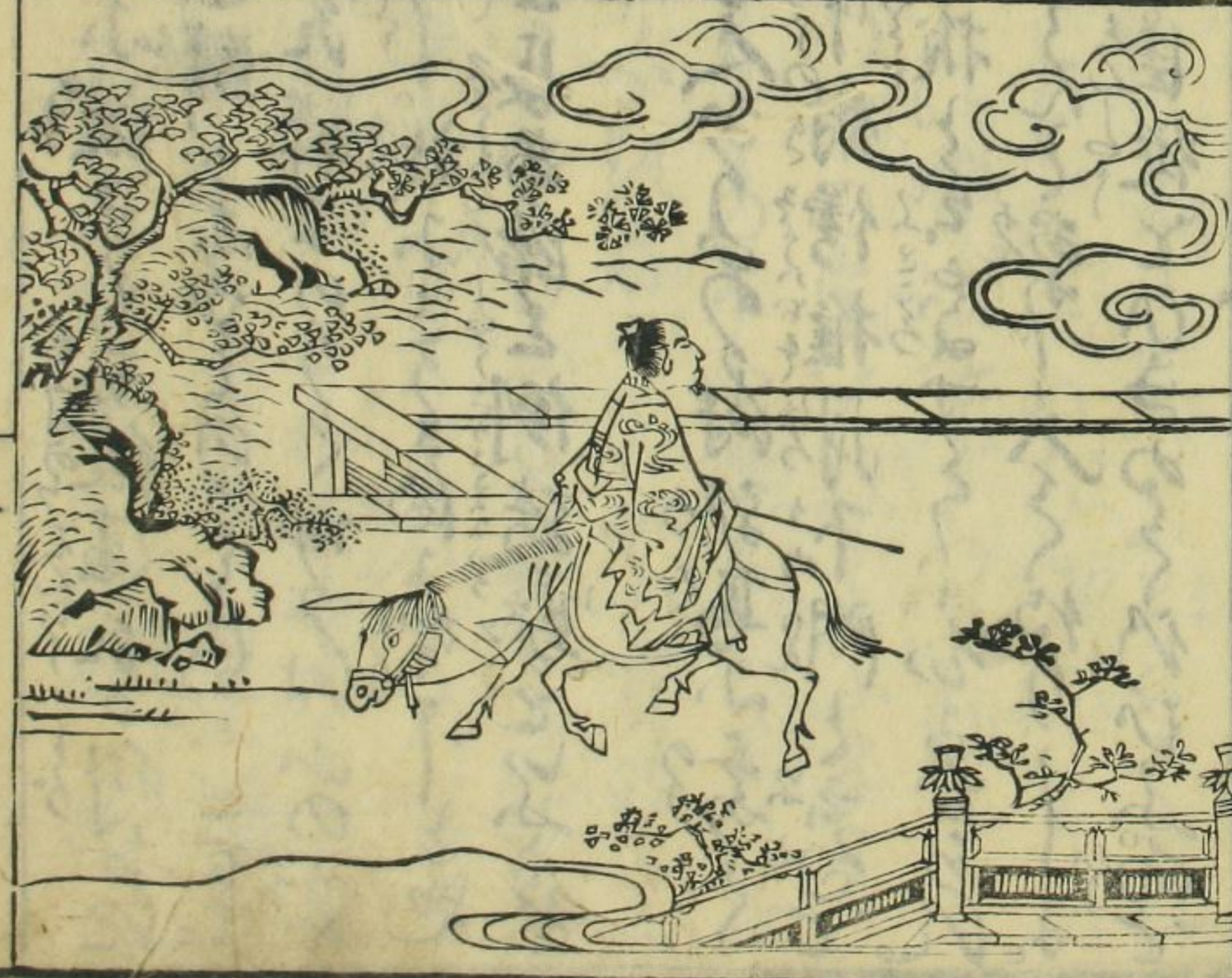
第一 魯婦

齊のあまうり魯のあまとうんととまう村齊魯の
境り一人の婦兄の子とさう子我子と捨ておら
齊の武士女と捕へて家女のいつくけいさけ
る。我兄の子あり捨らる。我子と云齊の人
はとさうてかく乃どさういあした女うみり
けり齊のあまを捨りたりあありとさうと
とやめくゆる魯のあまを憐れて納こま
婦人うりけりあま
直なる者は
徳ありとや



坊二 潘園

潘園八月の穆王は
星地小落く八足の
と化は驥駒驪驎驠
驪駒駒。中を驪
ハ尾を奇あり友乃
下潘園とすめそ
馬の危とやめさる。
其の危のありかり
をれば穆王遂録

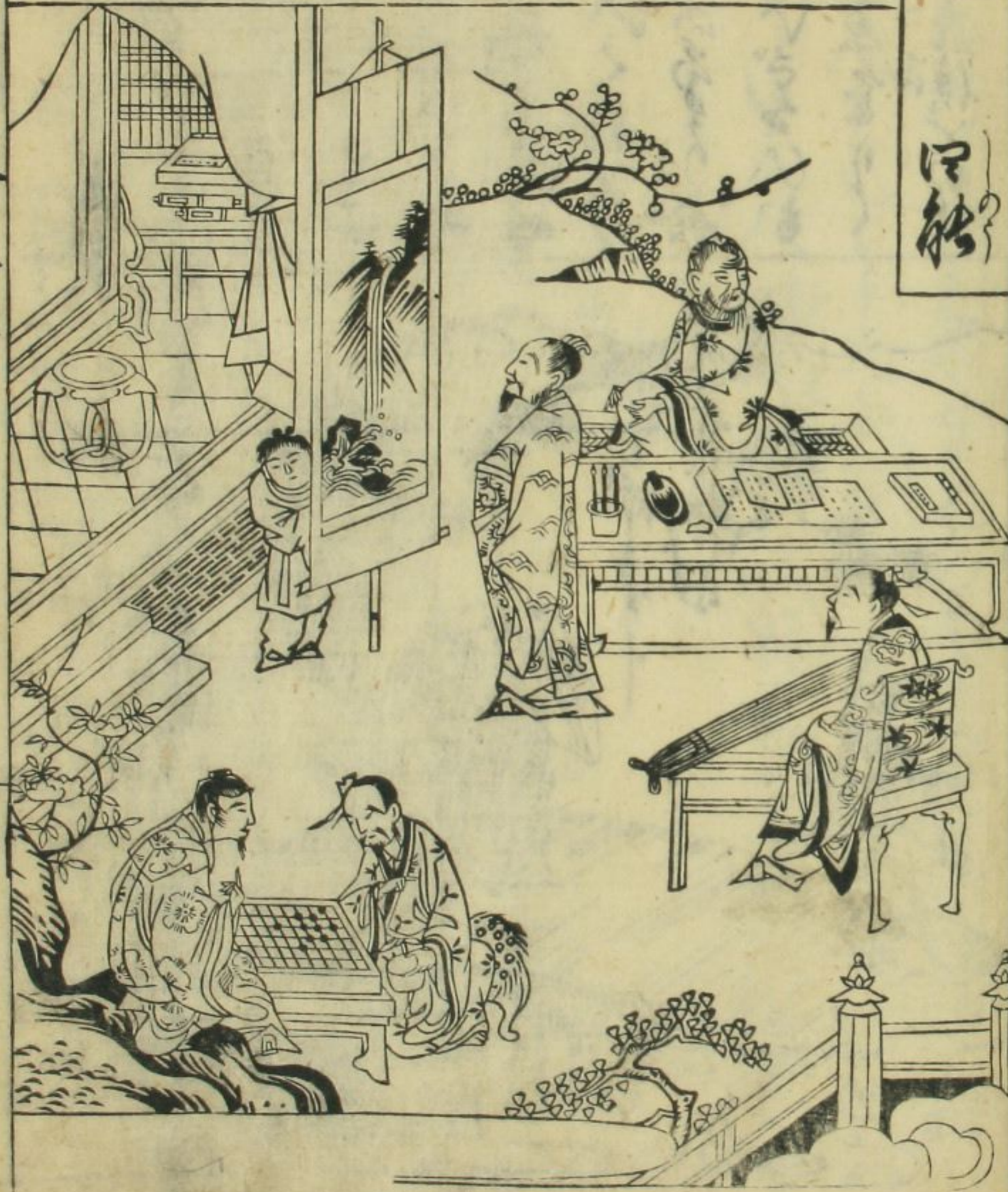


ありて清宮と花山ハナノヤマ小放コウハツさうく。而後清宮が科カあり
 半とあるにけらしき。驛エキがまゆこのころにニと付て
 花山ハナノヤマと送らる。清宮驛エキのりくゆり時トキ山のふ
 妙ミチと可カしむ事コト喜ヨシ。故コトふさうとゆみかろしと也
 堪カン笑ウツクシ華山ハナノヤマ清宮セイキウ處士ヂョウシ長チヤウあ路ロと倒タウ騎キ馬バといふ
 廿三 賈カ鳥トウ

賈カ鳥トウハゆふ妙ミチあり人あり。あり時トキ驛エキ馬バ小コあり
 過チカりるふ。鳥トウ宿ヤク池チ中チュウ樹ジュ傍ボウ推ツイ月ツキ下ゲ門メンと云イハふと
 聴キねるるが。但タ僧ソウハ推ツイと云イハふす。一イツふおちん
 ちやとんかやあんとあふド入イるなりし。
 律リツ退タイ之ノ車クルマにニ乘ノリ臣シ従ツグといさむくけいふ向ムカと

んとは。人ヒト跡アトるふあり。ありとてふるありくられ
 ちとち代チノカ乃ノ板イタをヲとと。大オホ官クワンのノおオ根ネ籍セキありと。
 匠テ下ゲこまこと教ケウんとし。賈カ鳥トウをヲととと教ケウんと
 ちりととと。彼カ乃ノ推ツイのノ字ジと教ケウといふ字ジり
 かさんととと。つとととと。そのふ律リツ退タイととと。匠テ
 下ゲ此コノ杖ツヱと制セイしゆいふか教ケウ者シヤととと。賈カ鳥トウをヲ
 義ギふととと。ばととと。いんとし。賈カ鳥トウかノのノ字ジとと
 かへ推ツイ教ケウのノ字ジととと。律リツ退タイ之ノ教ケウをヲ和ワ車クルマととと。教ケウ
 えととと。とといふ。律リツ退タイ之ノ教ケウをヲ和ワ車クルマととと。教ケウ
 のノ字ジ佳カありんとし。いひととと。賈カ鳥トウ一イツ句クと謝シヤと
 其コノ辭ジよりいり。教ケウのノ字ジをヲ令メイ賜ミふ遇ユ律リツと推ツイと

書 畫 碁 琴



政の字に改らるし
 題李穀函居 賈嶋
 閑居少隣並
 草徑入蒼園
 鳥宿池中樹
 僧敲月下門
 過橋分野色
 移石動雲根
 暫去還來此
 幽期不負言

河結



糸本卷三

笑 三笑

三笑とハ三人笑あり。三人ハ惠遠法師陸徳静陶淵明これあり。惠遠法師は虎溪山小こもつ時。陸徳静陶淵明酒を入る酒をすむ。碎のあまり恵をといざらむ。けつが恵をとりしより虎溪と也。



と折るれ 慧遠のうもわとと虎溪の橋と截し
うば三人とをこしうたふ後ひあつと海と海と
とあり。三人時代らうひりかかると心とありて
びりしよりあつと

笑 三教

三教ハ儒釈道の三教あり。儒ハ孔子聖人と稱し
仁義礼智信天地常道人と生むとく孝とん
てりうくうび。これと孝と父母の孝あり。其孝あり
んらし君の忠とけくひんとして平身と終るなり
天下平あり。其教あり。釈ハ釈迦如来と号
て殺生偷盜邪淫高慢と戒め。信行ハ皇帝を



廿七

嵩山四皓

嵩山ハ山乃名也。に皓ハ二人の老人あり。そ人くま
東園公姓ハ唐字ハ宣明。其唐公姓ハ廣其里不

小病也。角里先生姓ハ周名ハ術。角里ハ辰也。
綺里季々。皓ハ二人の老人あり。そ人くま
皓ハ二人の老人あり。そ人くま
被侯留破曲局子声宜非亦天涯
其基とててて。あ人ハ子とてゆめりてくもるをては
とてハ漢家の文ハ何ぞとておもりて。さこととも漢
うが保あく山とて。漢の惠帝ハ陛下とて
くもる也。子とてハ基とて。川色あり。そ時基と
ハあて。竹とて。月れ。鳴ひのこ。とて。子とて。あ人



伯夷叔齊

廿九 伯夷叔齊
 伯夷ハ兄。叔齊ハ弟。ある。父孤竹の君。老々死。兄
 と弟。討。い。か。おも。い。れ。る。ん。弟。叔。齊。の。代。と。傳。へ
 言。と。き。一。つ。つ。つ。叔。齊。ハ。い。つ。ふ。き。言。つ。つ。と。て
 兄。伯。夷。と。な。さ。さ。く。代。と。嗣。ん。事。ある。べ。く。と
 命。と。そ。し。ま。さ。く。代。と。續。と。理。の。あ。る。べ。と
 云。く。弟。小。徳。儀。と。い。ふ。が。弟。叔。齊。あり。そ。う。ん。に。ハ
 去。と。前。陽。山。の。か。れ。ぬ。兄。伯。夷。と。い。ふ。を。互
 り。殺。れ。ん。と。是。も。そ。ゆ。ふ。り。厭。と。り。て
 が。善。し。る。れ。か。つ。か。た。下。る。あ。く。新。の。こ

と高き位と強ち其後敗のて子殷乃紂王
 惡逆无乃にそ人氏憂へるや其武王
 あつめこそと亡さんか。伯夷はうと武王
 いく。既して武王を弑するに紂が怒りは起る
 その人君乃父文王崩すをいふ武王の中
 子ありどもや。忠なるふは伯夷なり
 不武王崩ひとぞよおまの伯夷は紂を
 とつらと。武王の軍士こそとるそは
 とそ害せんこと。太公望とていづくか
 義人あり。紂とそはつらと。武王は紂王と亡
 死と免とそは歸つとも。武王は紂王と亡

天下万歳と唱へか。伯夷とては食らんと。紂は
 ちとそと。たそ山乃箕幕まそ。粟は
 運びか。月の粟とばこれ食らんと去て
 紂の怒るに彼のいつ。あんじ今藜とば
 命と誓ふ。ばそ陽山、月の地おろすや。月の
 地はそと。びまれば。これとそら。月の
 とそ。びあり。それと食らそ。月の粟とば食ら
 と。不。毫。一。り。そ。じ。つ。り。と。こ。が。め。々。れ。を。城。を
 正極せり。とそ。紂。と。食。せ。ば。そ。七。日
 子。死。く。そ。死。し。り。ち。り。と。れ。じ。は。り。と。胡
 曾詩。少。と。首。陽。山。倒。成。平。地。始。應。無。人。說。姓。名。

龍門の山は、大なる成言の維にあり。崑崙山に比ぶるあり。大華山といふも、その比ぶる禹門津門の如く。三匠の匠あり。姑の重ありして、夏禹王の時こそ、作りあす。あまの桃花多し。三月三日、小魚は流の下にあつまる。のちのゆき、桃花の水と香を、お化らるる。



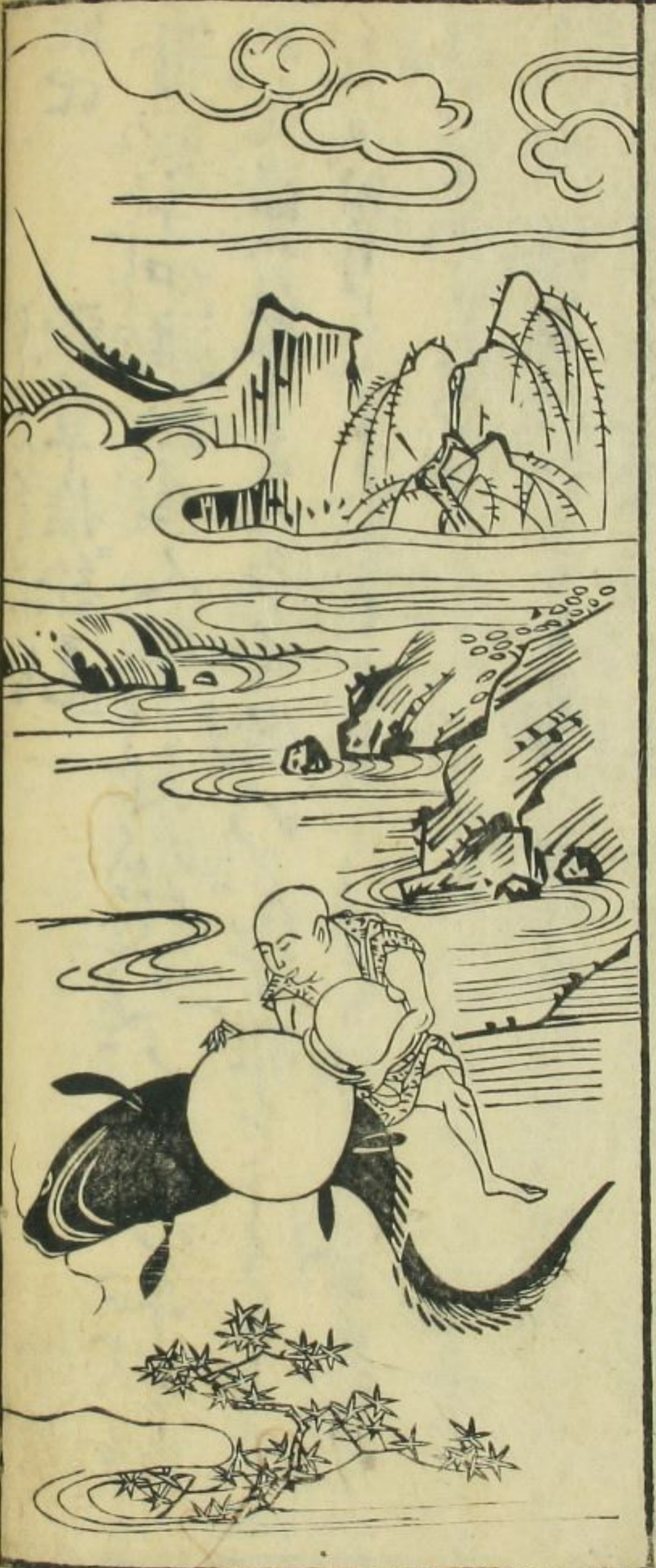
龍門

三十三
 龍門の山は、大なる成言の維にあり。崑崙山に比ぶるあり。大華山といふも、その比ぶる禹門津門の如く。三匠の匠あり。姑の重ありして、夏禹王の時こそ、作りあす。あまの桃花多し。三月三日、小魚は流の下にあつまる。のちのゆき、桃花の水と香を、お化らるる。



三十三
 龍門の山は、大なる成言の維にあり。崑崙山に比ぶるあり。大華山といふも、その比ぶる禹門津門の如く。三匠の匠あり。姑の重ありして、夏禹王の時こそ、作りあす。あまの桃花多し。三月三日、小魚は流の下にあつまる。のちのゆき、桃花の水と香を、お化らるる。

書れぬ米あつたぬたきりも多し。い理とあつた
 ぶりのハ智とたのむとたのむ。寵とたのむ。我と
 たて。とこもたがふ。時ハ火急入り。迫りて款と
 うれ。む。愚なりと。謂む。



世八

牡丹睡猫

牡丹花下睡猫在

年蝶とそりかたが

心蝶とあつた人

新うらりあつた人

とん。係係に

たつと。賢人

んえんく。陰

世六 陶剛明

陶剛明ハ晋ノ世

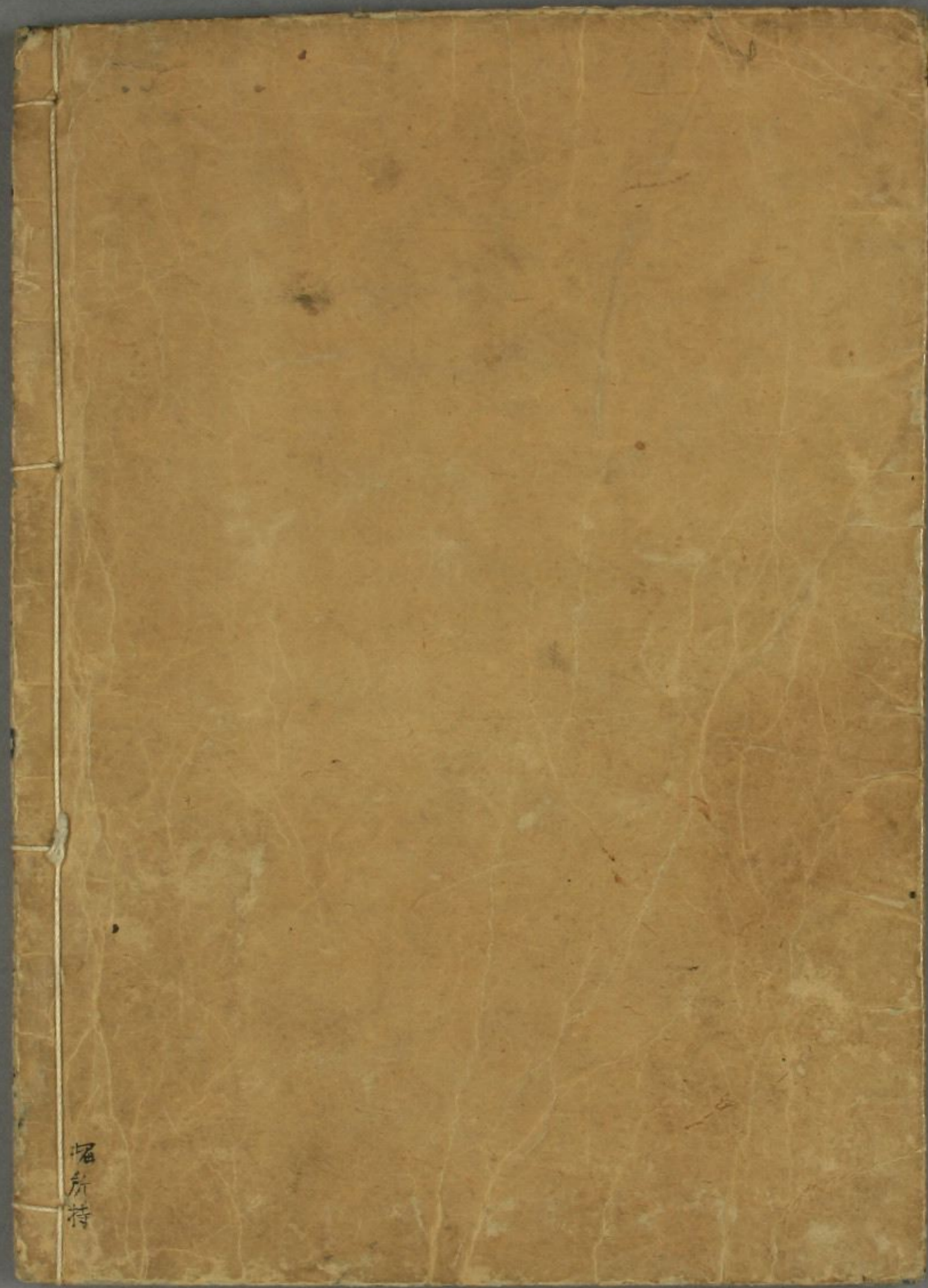
ノ御とらんく。



六御先生の傳傳る。ほ乃人陶達磨と云づる
 一、剛的が作りしゆ。菊と東蘇の下も採
 悠然として南山と見れば。然亦南山と見
 然の一方。自然の神を魔の直拈人身見
 性れさうあつあひの。とて乃すも中なりと家
 けして宿よほしむも。那を乃にまるふよ
 と使官らむとしく。然り。は。とれ束帯し
 細と折あんで紅雲の小児。とてそのよまみ
 あんやとて。つらぬ常小業とあひして。三還
 とひるる。作らほとて。つらぬ。識人ほと
 推の有り。菊の香をみく。碎とあせり。おれ

王弘陶剛的が賢わらうとて。云りて。これ
 身は。ゆの。は。と。き。一。年。海。と。さ。り。と。く。然。め。ら。り
 とあり。又剛的が。つ。と。世。に。ゆ。き。ま。の。碎。子。琴。書
 とたの。あ。ん。で。り。つ。と。變。と。消。と。し。り。つ。み。ま
 法。あ。り。ま。あ。琴。と。高。へ。朋。と。あ。つ。と。く。酒。の。む。じ。時
 ち。け。琴。と。と。り。つ。と。一。極。て。い。く。恒。琴。中。れ
 執。と。あ。つ。と。い。あ。ん。ど。法。の。上。の。都。と。芳。と。ん。や
 つ。ひ。つ。と。也。と。ハ。琴。と。ひ。く。ひ。つ。ぬ。あ。り。と。ん。法
 ち。と。い。と。て。も。その。調。子。と。う。あ。ふ。あ。り。と。ん。尺。則
 これ。妙。音。あり。と。

おろふあはる



堀所持